

令和2年度第1回防府市環境審議会 会議録

1 開催日時	令和2年10月1日(木) 午後1時30分から午後3時まで
2 場所	防府市役所 1号館3階南北会議室
3 出席者	<p>【委員】</p> <p>中尾委員、関根委員、木村委員、島添委員、石本委員、西藤委員、小野委員、谷野委員、藤原委員、片岡委員、東委員、池永委員、山田委員、阿部委員、中國委員、上川委員、岸本委員</p> <p>(欠席委員：角田委員、黒瀬委員)</p> <p>【行政】</p> <p>原田生活環境部長、金澤生活環境部次長</p> <p>(事務局)</p> <p>生活安全課：吉武課長、乙吉環境政策室長、原田、桑田</p>
4 傍聴者	なし
5 内容	<p>1 議事</p> <p>防府市環境基本計画について</p> <p>2 その他(報告)</p>
6 会議内容 ※表現の一部は、簡略化している。	<p>1 議事</p> <p>防府市環境基本計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務局から「資料1」により、計画の進捗状況及び環境状況の変化を説明。 <p>[質疑応答]</p> <p>A委員：17ページの路線バスの指標の設定が利用者数だが、人口が減少すれば当然利用者数も減ってくると思うが、人口一人当たりの利用率はどうか。人口一人当たりの利用率を増やそうとしているのなら理解できる。目標値が基準年度よりも増えているのなら分かるが、この目標値は低くなっている。ここでは何を目指しているのか。</p> <p>事務局：後ほど回答したい。</p> <p>B委員：今年は新型コロナの影響で廃棄物の排出量が増えているのではないかと懸念している。9ページの指標に包装・梱包の簡素化に努めている、とあるが今年は新型コロナの予防からテイクアウトなどで包装も増えているのではないかと。また、異常気象によりエアコンやクーラーをできるだけ使用して過ごすよう言われているため、それに伴い温室効果ガスが増えるのかなといったことも懸念している。</p> <p>C委員：4ページの廃棄物の最終処分量が、基準年度から中間年度にかけて大幅に減少しているが、これはどういうことか。</p> <p>事務局：旧焼却施設では焼却灰を埋め立て処分していたが、平成26年から供用を開始した新たな施設では、発生した焼却灰を全てセメント原料化しているため大幅に減少している。</p> <p>C委員：ということは最終処分量というのは、ごみ処理場に運ばれてきたごみの量ではなくて、処分場で処理された後の量のことか。</p> <p>事務局：運ばれてきたごみの量ではなく、最終処分した量のこと。</p>

議長：新たなごみ処理施設の供用開始に伴い、焼却灰の処分方法が改定され、これまで焼却灰を埋め立てて最終処分していたものを、中間処理してセメント原料にすることとしたということでしょうか。

事務局：よい。

C委員：環境への取組としてCSRやISO14001などの認証を受けている事業所があるが、そういった事業所を市は評価等しているのか。

事務局：確認し、次回回答する。

A委員：先ほどの質問と関連した内容になるが、10ページの省エネルギー新エネルギーの普及を進めますの項目の、新エネルギーの導入に関する補助金の利用件数の目標値が基準値と比べて低くなっている。目標値を設定した当時のことを知らないが、進捗状況を見るために設定する指標なので、目指す方向性がわかりやすい指標となるよう、次期計画の策定に向けて考えていただきたい。

事務局：新エネルギーの導入に関する補助金の利用件数の目標値については、平成28年の中間見直しの際、計画策定当初に比べて住宅用太陽光発電設備の普及が進んだことにより、現状にあわせて見直しを行っている。また、先ほど御質問のあった17ページの路線バスの利用者数に関する目標値については、第4次総合計画における目標値が下方修正されたことに伴い、中間見直し時に修正を行った。

指標については、現行計画で79項目定めており、中間見直し時にも委員から、重点的に注目する項目を設けるなど指標を絞り込んでどうか、といった御意見もいただいている。次期計画において指標を定める際には、御意見を踏まえて見直しを図りたい。

A委員：目標値については理解した。次期計画においては、下方修正が必要となるような指標ではなく、何を目指しているか方向性が示される指標にするべき。

事務局：検討させていただきたい。

B委員：19ページのCO2削減運動取組事業所数は、延べ数なのか新規事業所数を計上しているのか。

事務局：毎年度キャンペーンを実施しており、延べ数ではなく、毎年度新たに賛同いただいた事業所数を計上している。

議長：資料1の報告事項は、「防府市の環境」に記載されている進捗状況一覧と同じものか。

事務局：同じもの。ただし、「防府市の環境」では数値のみの報告となっているため、新たな計画の策定にあたり、資料1において数値の推移に関する説明と、課題や今後の取組などを取りまとめている。

議長：新たな計画の体系などはまだ白紙なのか。

事務局：本日いただいた御意見、また現在策定中の第5次総合計画等との調整を図りながらこれから策定作業を進め、次回の審議会においてお示しする予定としている。

議長：基本目標や基本方針などは第一次計画と第二次計画では同じか。

事務局：基本目標は同じだが、基本方針などの骨格の部分は変更している。次期計画は現行計画の方向性を維持しつつ、環境状況の変化等を踏まえて見直しを行っていく予定。

・事務局から「資料2」により市民及び事業所アンケートの内容について説明。

D委員：市民アンケートの対象者は、無作為で抽出するのか。

事務局：住民基本台帳から無作為抽出する。

E委員：これまでも同様のアンケートを行ってきたとのことだが、「そうは思わない」という回答がこれまでもあったか。あったのであれば、それに対しどういった対応をしてきたか。

事務局：計画書の44ページ以降に23年度と27年度のアンケート結果を掲載しており、「そうは思わない」といった回答もある。アンケートは計画策定のための基礎資料として実施しており、アンケート結果は、市事業成果等と併せて計画における施策等に反映させることで対応している。

D委員：市民アンケートは、自身の身近な問題だけではなく、市全体を捉えた回答を求めているものであり、そういったことが対象者に分かりやすい表示にされたい。

事務局：誰が見ても分かりやすい表示となるようにしたい。

議長：昨今問題視されている廃プラスチック、マイクロプラスチックによる海洋汚染に関する事項や、これから更に実用化されるであろう電気自動車や燃料電池自動車に関する事項について、設問に追加することを検討していただきたい。

F委員：アンケートはいつ頃実施する予定なのか。また、現在、新型コロナの影響でさまざまな数値が低くなることが予想され、対比を行う基準値として相応しくないと考えられるがどうか。

事務局：配布時期については10月末から11月を予定している。基準値の設定については、新型コロナの影響による事業の中止等により、今年度の数値が基準値として相応しくないことが予想されるため、次期計画において基準値を設定する際には、昨年度の数値を使用するなどの検討が必要であると考えている。

議長：事務局は、計画の見直し案を作成する際には、本日の意見等を参考にしていきたい。

2 その他（報告）

(1) 防府市地球温暖化対策地域協議会の活動報告等について（資料3）

(2) 「防府市の環境」（第49集）について（冊子）

— 以下は防府市情報公開条例第6条第1項第2号に該当するため非公開 —